



かがやけ憲法 キャラバンニュース

★北海道→青森→岩手 ★山口→広島→島根→鳥取

憲法キャラバン北から南から

かがやけ憲法キャラバン北海道・東北・関東越コースは、11月7日は岩手県を、中国・四国・東海・関東コースは鳥取県に入りました。

●11/7 岩手(2日目)

北海道・東北・関東越コース

一関市、奥州市で副市長と懇談

岩手県2日目の11月7日は朝から時折り小雨が降るなか、全労連キャラバンカーは岩手県南部を回り、一関市と奥州市では副市長と懇談しました。

◆新卒後の訓練に補助金 一関市

一関市では田代副市長らが対応。要請書を副市長に手渡したのち、全労連の井上事務局次長が、かがやけ憲法キャラバンの趣旨を説明。憲法改悪や秘密保護法案等の動きに触れ、憲法をいかして、平和や雇用の質をまもる共同をひろげていく大切さを強調しました。続いて、いわて労連の今野議長が、一関市など地域で起きている解雇等の事態を報告し、雇用の安定の重要性を要請しました。

副市長や企画振興部長から「雇用の質は大切」「市でもうまれたときから就職して定着するまで、保育の充実や職業教育などを重視している。新卒後の訓練に補助金を出して、若者が定着できる対策をはじめた」ことなどの説明を受け、懇談しました。

また、一関九条の会から、8年間続けてきた「戦争を語る会」がまとめた「証言集私の戦争体験」を手渡し、憲法まもる地域の豊かな活動についても報告し、話し合いました。



◆医療機関の統廃合問題で懇談 奥州市

奥州市では後藤副市長らが対応。同様に、憲法をいかした地域づくりの重要性について要請しました。



懇談のなかでは、医療機関の統廃合問題なども話しあい、市からは「市町村合併から8年経過し、今後、交付金が大きく減らされていくなかでの苦渋の選択。しかし、丁寧に理解を得たい」などの説明がありました。

「だからこそ、私たちは憲法をいかして政治の流れを変える共同を広げたいし、安倍政権の大企業に偏重した成長戦略は、大多数の国民や地域社会との矛盾を深めざるを得ない。世界の流れもグローバル化の弊害を是正する方向に変わってきている」などと要請団は指摘。その後、公契約や最賃問題

なども話題となり、副市長も何度も相槌を打つなど、突っ込んだ意見交換となりました。

●11/7 鳥取

中国・四国・東海・関東コース

伯耆町、米子市、境港市で懇談

11月7日、中国・四国・東海・関東コースは鳥取県入りしました。鳥取県労連は「かがやけ憲法キャラバン in 鳥取」と名付けたキャラバン行動に積極的に取り組んでいます。

7日は、鳥取県労連の植谷和則事務局長と堀尾結美事務局長、西部労連の山本議長と松原事務局長を中心に、伯耆（ホウキ）町、米子市、境港市の地元のみなさんが懇談グループと宣伝グループの2手に分かれ、自治体との懇談および宣伝行動に取り組みました。

伯耆町との懇談には全労連と鳥取県労連から5人が参加、伯耆町総務課長が対応しました。

米子市との懇談には全労連と鳥取県労連から5人が参加、福祉保健部次長の斉下美智子さん、総務部職員課長の菅原朗さん、経済部商工課長の足賀浩司さんが対応。米子市の介護、生活保護の実態、産廃処分場問題について懇談しました。

境港市との懇談には、全労連と鳥取県労連から4人が参加、自衛隊基地問題、地場産業振興、島根原発問題について懇談しました。境港市は、島根原発から20キロ圏内です。



◆道州制反対の意見書を採択 伯耆町

キャラバン参加者は、米子市文化ホール前広場で一日の行動を確認、意思統一したあと、「大山（ダイセン）の名水」で有名な伯耆町に向かいました。伯耆町は道州制反対の意見書を採択しています。全労連の岩永千秋常任幹事、鳥取県労連の植谷和則事務局長、全労連の長坂いつ子事務局員、伯耆町年金者組合の景山隆範さんと福田千富美さんが懇談に参加。町長が不在だったため、阿部泰総務課長が対応しました。

懇談の冒頭、全労連の岩永常任幹事がキャラバン趣旨説明を行いました。その後、鳥取県労連植谷事務局長は、この間の社会保障改悪について述べ「社会保障改革推進法による自治体への影響を懸念する。推進法は憲法25条に抵触するのでは？」と疑問を呈しました。また現行憲法と自民党による憲法草案の比較を示し「地方自治について規定した自民党の憲法草案92条および93条は、道州制の実施を視野に入れていることが明白であり、自

自治体にとって大問題」と訴えました。

また年金者組合の景山さんは「伯耆町職員の賃金は鳥取県の中で下から2番目。地域経済のためにも、職員賃金と非正規職員の待遇を改善してほしい。また自治体交付金を削減するなど、国は地方自治体に自立を迫ってくるが、自治体は住民のいのちと暮らしを守る役割を担っている。国にそのことを分からせるべきだ」と自治体の役割を強調。年金者組合の幅田さんは「多くの方が『今年は大雪になる』と心配している。非課税世帯に配っていた「福祉灯油」を復活させてほしい。町の希望につながる」と訴えました。

伯耆町の阿部泰総務課長は「国が削減した生活保護や年金について、自治体ができることは少ない。しかし今年、町内で火事が多い。自治体ができることといえば、せめて火災用非常ベルを全戸に配布することぐらい。年金の削減分を現金で補てんすることはできないが、そうしたことでカバーしたい。町職員賃金と非正規職員の待遇改善については、地元がいい人材を育て、根付かせるためにも改革を検討中だ」と述べました。

◆境港市・妖怪ロードで宣伝



キャラバンの宣伝グループは、各宣伝スポットで積極的な宣伝行動に取り組みました。伯耆町では、伯耆ニュータウンなど2か所、米子市内では文化ホール前など4か所、境港市では境港駅前、妖怪ロードなど3か所で宣伝とチラシ配布を行いました。

宣伝には、労働組合だけでなく新婦人など地元のみなさんのべ25人が参加しました。

憲法をいかし、暮らし・雇用・平和を守ろう



全国縦断キャラバン2013